

三島市いじめの防止等のための基本的な方針

(案)

平成26年 月

三島市・三島市教育委員会

はじめに

いじめは、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものであります。

三島市教育委員会では、各学校がいじめ問題に対して、

- ・「いじめは人間として絶対許されないこと」
- ・「早期発見、早期対応に努め、いじめと向き合い解決に向けて最善の努力をすること」
- ・「いじめ発見時は、学校全体で組織的に対応すること」

を柱に、いじめ解消率100%を目指してまいりました。

また、静岡県でも、「静岡県の学校からいじめをなくす提言」(H24)や「いじめ対応マニュアル」(H25)をもとに、いじめ問題に取り組んできました。

さらに、三島市では、いじめ根絶に向け、人権教育を意識した生徒指導態勢を構築していくよう心がけました。「自他の人権を尊重する態度や行動力の育成」を理念とする静岡県の人権教育の考えに基づき、「困っている子」として子どもを捉え、カウンセリング・マインドを活かしたり、特別支援教育の立場からの子ども理解をすすめたりする等、個を尊重する人権教育を意識して取り組んできました。

しかし、未だにいじめ防止や解消が困難であり、平成25年6月「いじめ防止対策推進法」が成立し、それを受け、国や県では「いじめ防止基本方針」を策定され、社会総がかりでいじめの問題に対峙するよう基本的理念や体制を整備しました。

そこで、三島市教育委員会は、ここで改めて、市としての重点的な取組を「三島市いじめの防止等の基本方針」としてまとめ、学校だけでなく保護者・地域へ周知し、より根本的ないじめ問題の克服を目指してまいります。この方針は、国や県のいじめ防止基本方針を受けて、児童生徒の尊厳を保持するため、国・地方公共団体・学校・家庭・地域住民その他の関係者の連携の下、いじめの問題の克服に向けて取り組むよう、いじめ防止等対策を総合的かつ効果的に推進するためのものです。

また、各学校は、実情に応じ「学校いじめ防止基本方針」を児童生徒や保護者、地域の方々とともに策定し、保護者・地域・関係機関と連携しながら、いじめ問題に取り組んでいきます。

平成26年〇月
三島市・三島市教育委員会

目次

はじめに

第1 いじめの防止等の基本的な考え方

- 1 いじめの定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 2 基本的な考え方
 - (1) いじめの未然防止・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - (2) いじめの早期発見・早期対応・・・・・・・・ 2
 - (3) 関係機関等との連携・・・・・・・・ 2

第2 いじめの防止等のための対策

- 1 三島市・三島市教育委員会が実施すること
 - (1) 基本方針の策定・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (2) 組織の設置・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (3) いじめの防止等のための対策・・・・・・・・ 3～5

- 2 市立学校が実施すべきこと
 - (1) 基本方針の策定・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (2) 組織の設置・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (3) いじめの防止等のための対策・・・・・・・・ 6～8

- 3 重大事態への対処
 - (1) 三島市教育委員会又は市立学校による対処・・・・・・・・ 9
 - (2) 市立学校に係る対処・・・・・・・・ 10
 - (3) 三島市教育委員会の指導、助言及び援助・・・・・・・・ 10

第1 いじめの防止等の基本的な考え方

1 いじめの定義

いじめとは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」をいいます。

いじめの表れとして、以下のようなものが考えられます。

- ・冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ・仲間はずれ、集団から無視をされる
- ・軽く体を当てられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ・体当たりされたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ・金品をたかられる
- ・金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ・パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる 等

一つ一つの行為がいじめに当たるかどうかの判断は、いじめられた子どもの立場に立つことが必要です。また、いじめには様々な表れがあることに気をつけて、いじめであるかを判断する際に、「心身の苦痛を感じているもの」だけでなく、苦痛を表現できなかつたり、いじめに本人が気づいていなかつたりする場合もあることから、その子や周りの状況等をしっかりと確認することも必要です。

2 基本的な考え方

乳幼児から青年へと育つ中で、子どもは家庭や様々な集団において、ありのままを受け止めてくれるような関わり合いを通して、自分だけでなく他人の理解をも深め、よりよい人間関係をつくり上げていきます。この育ちにおいて、社会全体で、子ども一人一人の自分を大切に思う気持ち（自尊感情）を高め、きまりを守ろうとする意識（規範意識）や互いを尊重する感覚（人権感覚）をじっくりと育て、健やかでたくましい心を育むことが、いじめのない社会づくりにつながります。

(1) いじめの未然防止

- ・健やかでたくましい心を育むために、深い子ども理解が大切です。家庭、地域、学校は、いじめの防止等に向けて、子どもの心情を共感的に受け止め、子どもとの信頼関係を築くよう、子どもとの関わりや対話を大切にすることが重要です。

- ・子どもとの信頼関係を大切にし、考え方などの違いを認め合うなど、安心して自分を表現できる集団づくりに努めることが求められます。また、学校での学級活動や道徳の時間等を活用し、子ども自らがいじめについて考える場や機会を大切にし、自分たちの問題を自ら解決していく集団を育てていくことが重要です。

(2) いじめの早期発見・早期対応

○早期発見 ーいじめはどの子どもにも起こりうるー

- ・家庭では、日頃の対話や態度などから、いじめなどが疑われる子どもの変化を見逃さず、いじめの早期発見に努めることが求められます。
- ・学校では、いじめを報告しやすい機会や場をつくり、子どもや保護者、地域住民からの訴えを親身になって受け止め、速やかにいじめの有無を確認する必要があります。また、日頃から、定期的なアンケート調査を実施するなど、積極的ないじめの発見に努めることが大切です。
- ・地域では、いじめの事実を知ったり、いじめの現場を目撃したりした場合は、速やかに家庭や学校へ連絡するなど連携して対応することが重要です。

○早期対応 ーいじめられている子どもの立場に立って組織的にー

- ・いじめが発見された場合には、深刻な事態にならないように、学校、家庭、地域等が状況に応じて連携し、速やかに協力して対応していくことが求められます。
- ・いじめられた子どもへの支援、いじめた子どもや周りの子どもへの指導など、状況を十分に把握した上で、具体的な取組を確認して、対応することが重要です。
- ・状況によっては、警察や児童相談所、医療機関など関係機関等と連携することも必要です。

(3) 関係機関等との連携 ー専門家とつながるー

いじめの問題に、学校、家庭、地域の連携・協力だけでは十分対応しきれなかったり、解決に向けて状況が変わらなかつたりする場合は、以下のような関係機関との適切な連携が大切であり、必要となります。

- ・学校、警察及び児童相談所等の関係機関との、日頃からの連絡を密にした情報共有体制の構築
- ・医療機関等の専門機関と連携した教育相談等の必要に応じた実施
- ・人権啓発センターや法務局など、学校以外の相談窓口の子どもや保護者等への周知

第2 いじめの防止等のための対策

1 三島市・三島市教育委員会が実施すること

三島市・三島市教育委員会は、いじめ防止対策について必要な措置を講じます。また、市立小学校及び中学校（以下「市立学校」という）におけるいじめの未然防止や早期発見、いじめが疑われる事態が発生した際の早期対応、組織的な取組等が図られるよう必要な指導及び支援を行います。

(1) 基本方針の策定

三島市・三島市教育委員会は、「三島市いじめの防止等のための基本的な方針」を策定します。策定した本市の基本方針については、適宜見直すなど、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、必要な措置を講じます。また、市立学校における基本方針について策定状況を確認します。

(2) 組織の設置

ア 三島市いじめ問題対策連絡協議会（「三島市〇〇条例」による）

三島市・三島市教育委員会は、関係機関及び諸団体との連携を図るため、三島市いじめ問題対策連絡協議会を設置します。市立学校、市教育委員会、東部児童相談所、三島警察署、市家庭児童相談所、市青少年相談室、その他の関係者で構成し、学校におけるいじめの防止等に活用します。

イ 教育委員会の附属機関「三島市いじめ調査委員会」

（「三島市〇〇条例」による）

三島市教育委員会は、三島市いじめ問題対策連絡協議会との円滑な連携のもと、弁護士や精神科医、学識経験者、心理や福祉の専門家等、専門的な知識及び経験を有する第三者等で構成し、以下に示す機能を持つこととします。

- ・三島市教育委員会の諮問に応じ、調査研究等、有効な対策を検討し、意見を答申します。
- ・学校におけるいじめの通報や相談、重大事態の発生を受け、第三者的立場から対処します。

(3) いじめの防止等のための対策

三島市教育委員会は、次の取組をします。

ア いじめの未然防止

(ア) 思いやりの心を育むための道德教育等を推進

- ・道德や学級活動の時間に、児童生徒がいじめについて考え話し合う場を設定するよう推進し、人の心の痛みをわかろうとする思いやりや正しい判断力を持ち、その思いに沿った行動ができる子を目指します。

- (イ) 教職員の資質向上、外部人材への協力依頼
 - ・「三島市いじめ問題対策連絡協議会」等において、心理、福祉の専門家を活用した研修や、いじめ対応マニュアルを使った研修を推進するなど、教職員の資質向上に取り組みます。
 - ・心理、福祉の専門家等、教育相談に応じる者や、教員経験者、警察官経験者などの外部人材に協力を求めます。
 - (ウ) 調査研究の推進及び啓発活動等
 - ・いじめ防止対策の状況把握、子どもへの適切な指導助言や保護者への啓発の在り方等の調査研究・検証を推進し、成果の普及を図ります。
 - ・いじめが子どもの心身に及ぼす影響、いじめに係る相談制度や救済制度等について、必要な啓発活動を行います。
 - ・保護者が責任を持って子どものしつけや指導を行うことができるよう、啓発活動や相談窓口の設置等、家庭を支援します。
 - (エ) 学校運営の改善への支援
 - ・教職員が子どもと向き合い、いじめの防止等に適切に取り組むことができるよう、学校における業務の効率化を図るなど、学校運営の改善を支援します。
 - ・学校自己評価「いじめ問題への取組についてのチェックポイント」を実施し、各校のいじめ問題への対応を点検し、検証・見直しを図ります。
- イ いじめの早期発見・早期対応
- (ア) いじめを積極的に認知し、解消率100%を目指します。
 - ・「いじめはどこの学校でもどの子にも起こり得る」という認識を持ち、日頃から子どもの発する小さなサインを見逃すことのないよう、積極的にいじめを認知することを促進し、解消率100%を目指します。
 - (イ) 早期発見・早期対応のための体制整備
 - ・いじめに関する相談や通報を受ける「三島市いじめ電話相談コーナー」等、体制を整備します。
 - ・いじめを受けた子どもと、いじめを行った子どもが同じ学校に在籍していない場合には、学校間の協力体制を構築し、連携して対応します。
 - ・インターネットを通じたいじめに対処するため、情報モラルに関する研修の実施など、学校に対する支援を推進します。
 - (ウ) いじめの報告を受けた際の措置
 - ・学校からいじめの事実について報告を受けたときは、必要に応じて学校に対する支援や指示を行い、又は自ら調査を実施します。
 - (エ) 三島市立小・中学校出席停止の命令の手続に関する規則の適切な運用
 - ・三島市教育委員会は、必要に応じて、同規則の適切な運用を図ります。

ウ 関係機関等との連携

(7) 関係機関との連携強化

- ・定期的に「三島市いじめ問題対策連絡協議会」を開き、市立学校と警察、児童相談所等の関係機関との連携強化に努めます。特に、いじめが犯罪行為であると認めるときは、速やかに三島警察と連携します。

(1) 家庭・地域との連携を深める取組の推進

- ・「学校いじめの防止等のための基本的な方針」を児童生徒や保護者、地域の方々とともに策定・見直すことや、授業参観日や学校公開日に道徳等を公開すること等を推進し、家庭・地域との連携を深めます。

2 市立学校が実施すべきこと

市立学校は、校長のリーダーシップのもと、協力体制を確立し、三島市教育委員会と連携の上、実情に応じた対策を推進することが求められます。

(1) 基本方針の策定

市立学校は、国及び静岡県、三島市のいじめ防止基本方針を参考にして、各校の実情に応じ、学校いじめ防止基本方針を定めます。

学校いじめ防止基本方針の策定に当たっては、できる限り、PTAや地域の関係団体に意見を求めたり、児童生徒の意見を取り入れたりするようにし、実効性のある方針になるよう努めます。

また、策定後は、ホームページ等で公表するとともに、いじめの防止等への取組を充実させるために、教職員の意識や取組を学校評価等で定期的に点検し、適宜基本方針の見直します。

(2) 組織の設置

市立学校は、いじめの防止等の中核となる常設の組織を置きます。

- ・ 構成員は、各校の管理職や主幹教諭、生徒指導主任・主事、学年主任、養護教諭などです。必要に応じて、学級担任や部活動顧問等、関係の深い教職員を追加したり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医師、教員経験者、警察官経験者など外部専門家に協力を求めたりして対応することが求められます。
- ・ 情報の収集、記録、共有や取組方針の企画立案等、定期的に打合せを行う必要があります。また、いじめ事案発生時は、緊急会議を開いて対応を協議するなど、学校が組織的にいじめの問題に取り組むために中核的な役割を担うことが求められます。その際、既存の組織を活用することも可能です。

(3) いじめの防止等のための対策

ア いじめの未然防止

(7) 道徳教育等の推進

社会性や規範意識、思いやりなどの豊かな心を育み、心の通う人間関係づくり、コミュニケーション能力の基礎や人権感覚を養うため、教育活動全体を通じて道徳教育等の充実を図ることが必要です。

(イ) 子どもの自主的活動の場の設定

学級活動や児童会活動・生徒会活動など、子どもが自主的にいじめについて考える機会を設けることが必要です。

(ウ) 保護者や地域への啓発

保護者や地域に対しては、常に子どもの様子に目を配り、いじめに関す

る情報を得た場合には、直ちに学校に相談するよう啓発することが必要です。

(I) 教職員の資質向上

教職員に対し、事例検討などの研修を計画的に行う必要があります。

イ いじめの早期発見・早期対応

(7) 子どもの実態把握

子どもに対する日常的な観察を基盤に、定期的なアンケート調査等を行う必要があります。

(4) 相談体制の整備

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの協力を得るなど、子ども、保護者、教職員に対する相談体制を整備することが求められます。
- ・いじめの相談を受けた場合には、家庭や地域等と連携し、いじめを受けた子どもやいじめについて報告した子どもの立場を守る必要があります。

(ウ) 市立学校のいじめに対する措置

- ・いじめの相談を受けたり、子どもがいじめを受けていると思われたりするときは、早期に事実確認を行うとともに、いじめが確認された場合には、三島市教育委員会に報告することが必要です。
- ・いじめが確認された場合は、いじめをやめさせ、再発防止のため、組織を活用し、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の協力を得て、いじめを受けた子どもとその保護者に対する支援、いじめを行った子どもとその保護者に対する指導、助言を継続的に行う必要があります。
- ・必要に応じて、いじめを行った子どもを、いじめを受けた子どもが使用する教室以外の場所で学習を行わせる等、いじめを受けた子どもが安心して教育を受けられるようにする必要があります。
- ・いじめを受けた子どもの保護者と、いじめを行った子どもの保護者との間で争いが起きることのないよう、保護者と情報を共有するなど必要な措置をとることが求められます。
- ・いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認めるときは、警察に相談し、連携して対応します。また、子どもの生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがある場合は、直ちに警察へ通報するなど、適切な援助を求める必要があります。

(E) 校長及び教員による懲戒

校長及び教員は、いじめを行った子どもに対して、教育上必要があると認めるときは、人格の成長を促すため、適切に、懲戒を加えることができ

ます。

ウ 関係機関等との連携

- ・日頃から警察や相談機関等と協力体制を確立し、いじめが起きたときには状況に応じて連携し、早期に対応することが必要です。
- ・いじめの発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携の下で取り組むことが大切です。

3 重大事態への対処

(1) 三島市教育委員会又は市立学校による対処

ア 重大事態のケース

重大事態とは、次のような場合を言います。

(7) いじめにより子どもの生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

- ・子どもが自殺を企図した場合
- ・身体に重大な傷害を負った場合
- ・金品等に重大な被害を被った場合
- ・精神性の疾患を発症した場合 等

(4) 欠席の原因がいじめと疑われ、子どもが相当の期間、学校を欠席しているとき。あるいは、いじめが原因で子どもが一定期間連続して欠席しているとき。

(7) 子どもや保護者から、いじめられて重大事態に至ったという申立てがあったとき。

イ 重大事態についての調査

重大事態が発生した場合には、市立学校は三島市教育委員会に報告し、三島市教育委員会の判断のもと、速やかに三島市教育委員会又は学校のもとに組織を設け、事態への対処や同種の事態の防止に向け、客観的な事実関係を明確にするために組織的に調査を行います。なお、子どもの入院や死亡など、いじめられた子どもからの聴き取りが不可能な場合は、子どもの尊厳を保持しつつ、保護者の気持ち、要望や意見に十分配慮しながら、速やかに調査を行います。

ウ 情報の提供

三島市教育委員会又は市立学校は、いじめを受けた子ども及びその保護者に、調査結果をもとに、重大事態の事実関係などの情報を提供します。

エ 三島市教育委員会の姿勢

市立学校が調査及び情報の提供を行う場合、三島市教育委員会は必要な指導及び支援を行います。

また、三島市教育委員会が調査の主体となる場合は、三島市教育委員会の附属機関「三島市いじめ調査委員会（仮称）」が調査を実施します。その際、公平性・中立性の確保について配慮します。

オ 報道への対応

情報発信・報道対応については、個人情報保護へ十分な配慮の上、正確で一貫した情報提供が必要です。初期の段階で「トラブルや不適切な対応はなかった」と決めつけたり、断片的な情報で誤解を与えたりすることのないよう留意します。また、自殺については連鎖（後追い）の可能性があることな

どを踏まえ、報道の在り方に特別の注意（倫理観を持った取材等）が必要であり、WHO（世界保健機関）による自殺報道への提言を参考にする必要があります。

(2) 市立学校に係る対処

ア 三島市長への報告

市立学校は、重大事態が発生した場合には、三島市教育委員会の判断のもと、その旨を三島市長に報告します。また、三島市教育委員会は、調査の結果を三島市長に報告します。

イ 三島市長による調査

報告を受けた三島市長は、事態への対処や同種の事態の防止のため、必要があると認めるときは、附属機関「三島市調査委員会（仮称）」を設けて調査を行う等の方法により、調査の結果について調査を行うことができます。

ウ 調査結果に対する措置

- ・三島市長は、調査を行った場合、その結果を議会に報告しなければなりません。
- ・三島市長、三島市教育委員会は、調査の結果を踏まえ、自らの権限及び責任において、必要な措置を講じます。
- ・必要な措置として、指導主事、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールサポーター等の派遣による重点的な支援等の方策が考えられます。

(3) 三島市教育委員会の指導、助言及び援助

三島市教育委員会は市立学校に対し、重大事態への対処に関する学校の事務の適正な処理を図るため、必要な指導、助言又は援助を行います。